

スレート屋根改修工法「JFE スレートカバー780」の受注、順調に拡大

JFE 鋼板株式会社は、工場・倉庫などの老朽化したスレート屋根の改修用に工事中、粉塵を屋内に飛散させず金属屋根を覆う施工性、経済性に優れたカバー工法を開発し、2008年4月より全国に本格発売を開始しております。

スレート屋根改修には、粉塵飛散防止や経済性の観点から既存スレートを撤去し金属屋根を新設する工法から、既設スレートの上に金属屋根を覆うカバー工法が多く採用されてきています。

カバー工法には、金属屋根を固定するためのビスを既設スレートに貫通させ既設の屋根下地材（母屋材）に直接固定する「直接固定工法」と既設スレートに穴を開けずに金属屋根を固定するための新設下地材（新設母屋）と新設コネクターを介し間接固定する「間接固定工法」があります。

「直接固定工法」はスレート撤去工法と比べると安価で工期短縮できるメリットがあり現在も採用されていますが、ビス固定時に既存スレートに穴をあけるため、屋内にアスベスト等の粉塵が飛散するので、室内養生や工場操業の制約が必要になります。

「間接固定工法」は粉塵の屋内飛散が防止でき簡易な室内養生を施せば、工事中でも比較的制約なく工場操業が可能です。しかし、これまでの間接固定工法では、金属屋根材を固定するために新設母屋材やコネクターをスレート屋根上に配置する必要があり、直接固定方法と比較すると、屋根荷重の増加やコストアップ等のデメリットがありました。

この間接固定工法の課題を解消するため弊社では「JFE スレートカバー780」を開発しました。働き幅を既設スレート屋根と同じ780mmとしたため、既存フックボルトが活用でき新固定金具を設置するだけで新設の母屋材やコネクターを不要とした画期的な間接固定工法です。従来間接固定方法と比較すると、約50%の軽量化が可能となり地震時の建物への負担を大幅に軽減し、また材料費の削減と施工性の向上によりコストは、約20%削減できます。

発売開始直後に、法務省案件である岡山刑務所の改修（1,050㎡）で、その施工性・経済性に高いご評価を頂き、引続き別棟（4,800㎡）のスレート屋根改修でもご採用頂きました。現在、全国のお客様に積極的にPR活動を展開しており、これまでの施工実績は50,000㎡に達しました。今後は、本工法の持つ環境対応・コスト競争力を武器に拡販し、年間100,000㎡まで販売数量を引き上げていく計画です。

また、直接固定工法としても「JFE スレートカバー780」と同じ働き幅の屋根材が適用できる固定金物（枕座）を開発しました。従来のカバー工法屋根材の働き幅650mmに比べ20%広いことから、施工性、経済性に優れています。お客さまのご要望に合わせ直接固定方法、間接固定方法いずれも選択できるように対応しております。

本件に関するお問合せは、下記にお願いします。

JFE 鋼板株式会社 お客様支援チーム 南角、野口

TEL 03 (5255) 9528

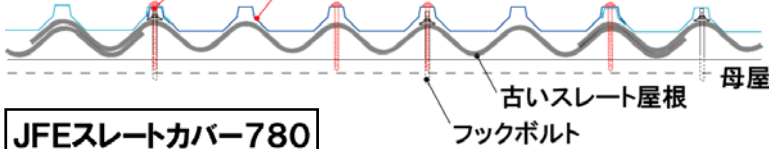
① 直接固定工法

従来の場合

スレート屋根 働き幅780mm

従来カバー工法 働き幅650mm

屋根取付用ビス(新設)
金属屋根材(新設)

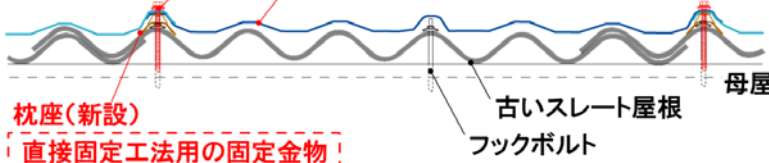


JFEスレートカバー-780

スレート屋根 働き幅780mm

JFEスレートカバー-780 働き幅780mm

屋根取付用ビス(新設)
金属屋根材(新設)



直接固定工法
アスベスト粉塵室内に落下必須

アスベスト
粉塵飛散

- 古いスレートに穴を開け
金属屋根材(新設)をビスで母屋(既設)に
打ち込む際アスベスト粉塵が発生

- 日常業務停止 (工場の稼働率下る)



JFEスレートカバー-780(直接固定工法)なら

従来の直接固定工法(働き幅650)に比べ
スレートと同じ幅なので施工性、経済性
に優れ、コスト減可能

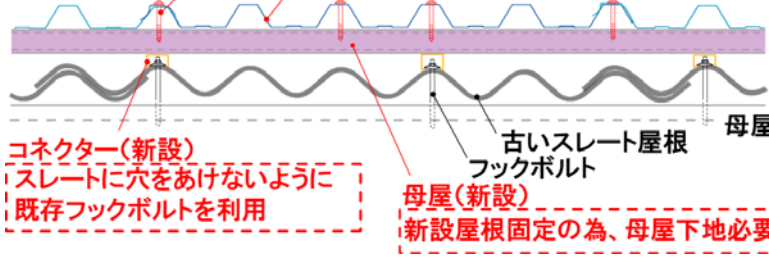
② 間接固定工法

従来の場合

スレート屋根 働き幅780mm

従来カバー工法 働き幅650mm

屋根取付用ビス(新設)
金属屋根材(新設)

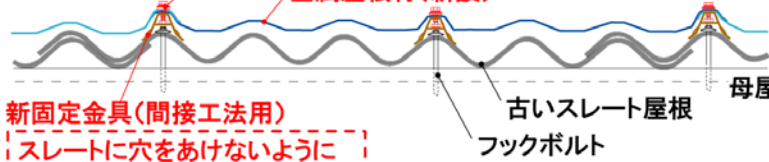


JFEスレートカバー-780

スレート屋根 働き幅780mm

JFEスレートカバー-780 働き幅780mm

屋根取付用ビス(新設)
金属屋根材(新設)



間接固定工法
アスベストの粉塵発生せず

- 金属屋根材(新設)を母屋(新設)にビス打ち
するのでアスベスト粉塵が発生せず

- 粉塵落下は解消、日常業務停止不要

- ただし新設母屋材が通し材なのでコストアップ!



JFEスレートカバー-780(間接固定工法)なら

①と②のマイナス面を解消画期的な新商品
材料費削減、施工性向上、コスト20%減